

ビワ生育情報

千葉県
平成28年12月号

平成28年11月の気象

平成28年11月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は、第3及び第4半旬を除く4半旬で平年より低かった。月平均は11.9℃で、平年より1.4℃、前年より2.3℃低かった。11月25日には氷点下を記録し、その日の日最低気温は、暖地園芸研究所で-0.4℃、館山測候所で-0.1℃であった（11月の歴代8位）。

降水量は、第2及び第6半旬を除く4半旬で平年並みか上回った。月合計は186mmで、平年の129%、前年の78%であった。

日照時間は、第2及び第4半旬を除く4半旬で平年を下回り、月合計は122時間で、平年の84%、前年の98%であった。

表1 平成28年11月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	13.3	15.4	14.5	20	20	19	22	25	34
2	11.9	14.9	16.8	10	35	42	28	25	16
3	14.2	13.9	14.4	57	19	85	16	24	12
4	13.1	12.3	16.0	54	25	37	26	24	18
5	9.7	11.6	13.2	32	21	40	14	24	12
6	9.6	11.5	10.2	15	25	14	16	25	32
平均/計	11.9	13.3	14.2	186	144	237	122	145	125

1月の作業（花房の発育は次ページ）

ビワは、厳寒期に入ると枝葉の伸長及び根の活動は停滞するが、開花は引き続き進行し、幼果はわずかながら肥大する。本年は、開花の進みが平年より早く、寒害を受けやすいと考えられるため、寒害には十分注意する。1月は春からの本格的な果実肥大に備える追肥時期である。

苗木の植え付け

ビワの苗木の植え付けは、発芽直前で根の活動が緩慢な時期が良く、通常は2月中下旬が適期であるので、準備は早めにしておく。枝や根の伸長が始まってからでは、植え傷みが激しく、発芽が遅れるので、天候や苗の発育をみて時期を逃さないようにする。

寒害対策

ビワの幼果は、-3℃以下の低温に遭遇すると、胚(種子)が凍死し、生育が止まり落果してしまう。蕾あるいは開花中の花は寒害を受けにくいですが、受精後は幼果の発育が進むにつれて凍死しやすくなる。本年の開花の進みは平年並みかやや早いので(表3)、寒害もやや受けやすいと考えられる。開花が終了する1月上旬頃からは寒害対策が必要となってくる。

ビワの寒害は大陸性高気圧のもたらす寒波によって引き起こされる。本格的な寒波は1月中旬から3月上旬の間に数回襲来する。この時には、ビワ園を防寒して寒害を回避する必要がある。幼木園では、こも等の被覆資材で樹体を覆う方法、あるいは枝同士を結束する方法が効果的である。成木園では、園内をヒーターで加温して寒害を防止する。火点設置場所の整備と点火及び燃料の準備をしておく。

施肥

時期別の標準施肥量は表2に示した。果実の肥大及び春枝の発芽、伸長のための追肥は、春肥または実肥と呼ばれ、1月中に施用する。ビワの根は冬期もわずかながら伸長しており、2月下旬には活発になる。春肥はこの時期に合わせて施すのが一般的で、年間施肥量の30%程度を目安に施用する。土壌pHが低い場合には、苦土石灰などの石灰資材を施用し、pH6.0～6.5に矯正する。

表2 ビワの時期別標準施肥量（成分量 kg/10a）

時 期	耕土の浅い園			耕土の深い園		
	窒素	りん酸	加里	窒素	りん酸	加里
9月上旬（基肥）	12	9	9	11	9	7
1月中旬（春肥）	10	9	5	7	8	3
6月上旬（夏肥）	5	4	4	5	3	3
合 計	27	22	18	23	20	13

（千葉県主要農作物等施肥基準より）

管理上の留意事項

1. 土壌pHは6.0～6.5に矯正する。
2. 苦土石灰は、化学肥料施用の2週間前に施用し、その後耕うんする。
3. 施肥後は軽く耕うんする。ただし、夏肥施用後は、その必要はない。
4. 有機物は積極的に投入する。有機物の深層施用には必ず完熟堆肥を用いる。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表3に示した。

暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月9日で、平年並みで、前年より7日遅かった。「大房」が11月18日で、平年より8日早かったが、前年より4日遅かった。「田中」が11月11日で、平年より3日早かったが、前年より7日遅かった。

開花盛期は、「楠」が11月26日で、平年より2日早かったが、前年より7日遅かった。「田中」が12月3日で、平年より3日早かったが、前年より13日遅かった。

12月6日現在、「大房」は開花盛期、「楠」及び「田中」は開花終期に至っていない。

花房の出蕾が平年よりやや早かったが、11月の気温が低かった影響で、開花の進みは平年並みかやや早い。8～10月の日照不足により、樹及び花房の生育はやや悪い。

表3 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 9	11. 9	11. 2	11.26	11.28	11.19	—	12.26	12. 6
大 房	11.18	11.26	11.14	—	12.20	12. 4	—	1.29	12.20
田 中	11.11	11.14	11. 4	12. 3	12. 6	11.20	—	1. 9	12.11

平年：1986年～2015年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>